（町並み版）

※（町並み版）とは…

　プロファイルを作成した２７箇所の歴史的資産周辺の景観特性をよりきめ細やかに把握するため、周辺を景観特性ごとにエリア区分し、そのエリアごとに、町並みの特徴や景観形成の方針、建築計画等に求める配慮事項などをまとめたものです。

■１　清水寺からの眺望景観

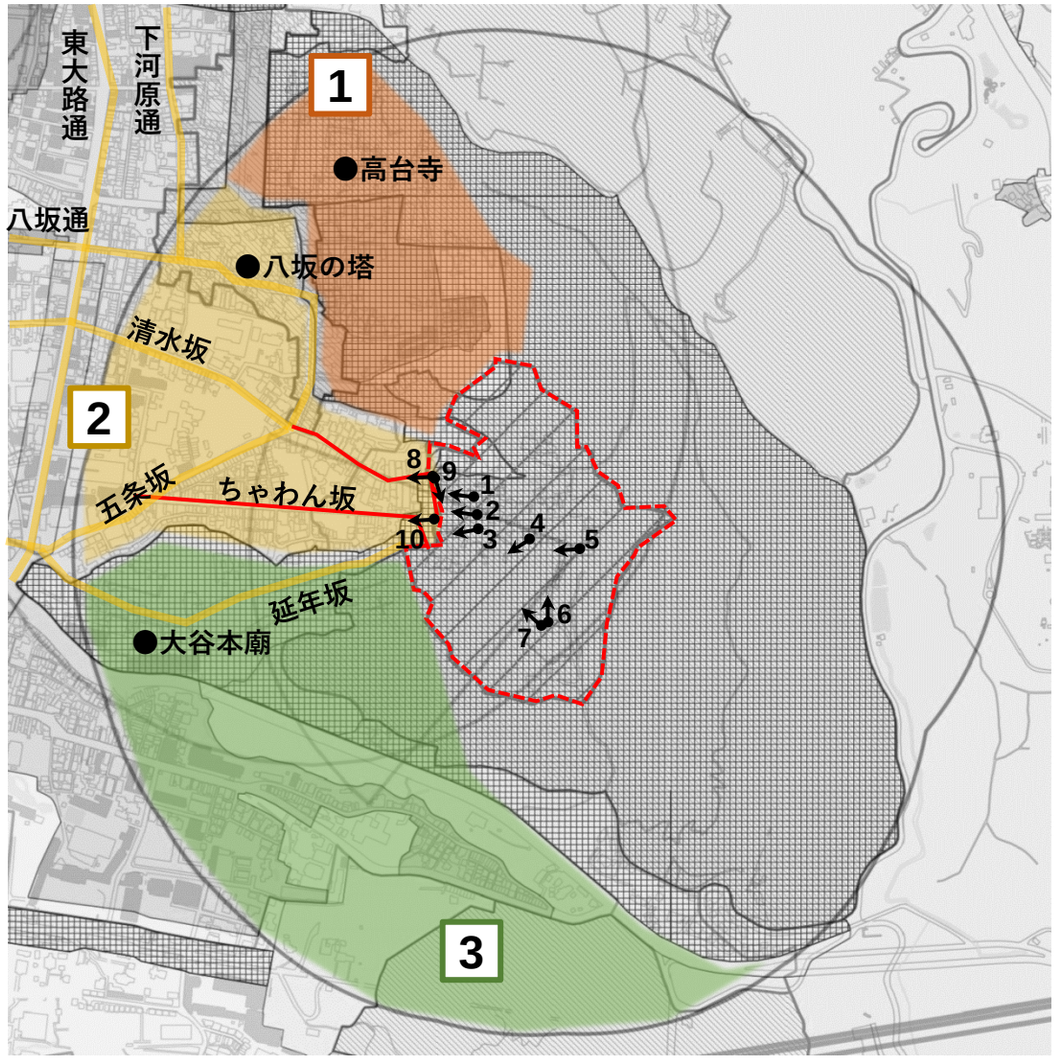
【周辺の特徴】
・清水寺は東山の山麓に位置しており、西側及び南側に眺望が開けている。
・境内からは西山を背景に眼下に広く市街地を望むことができる。
・奥の院は本堂の懸け造り舞台を見るための視点場となっている。

1-1　仁王門南から西への眺望
：参道の町並みや市街地、遠くの山々が見える。

1-2　西門から西への眺望
：市街地や遠くの山々が見える。

1-3　西門南から西への眺望
：参道の町並みや市街地、遠くの山々が見える。

1-4　奥の院から西への眺望
：本堂や市街地、遠くの山々が見える。



視点場（境内）　視点場（参道等）　主な通り

1-5　回廊南側から南西への眺望
：遠くに京都市南部の市街地が見える。

1-6　子安塔から北への眺望
：三重塔や市街地、北山が見える。

1-7　子安塔から北西への眺望
：清水寺中心部と背後の山々が見える。

1-8　仁王門西側から清水道への眺望
：清水道参道の終端からの眺望。

1-9　仁王門から南への眺望
：境外の建築物は見えない。

1-10　ちゃわん坂
：ちゃわん坂の低層建築物が見える。

■２　清水寺周辺の景観

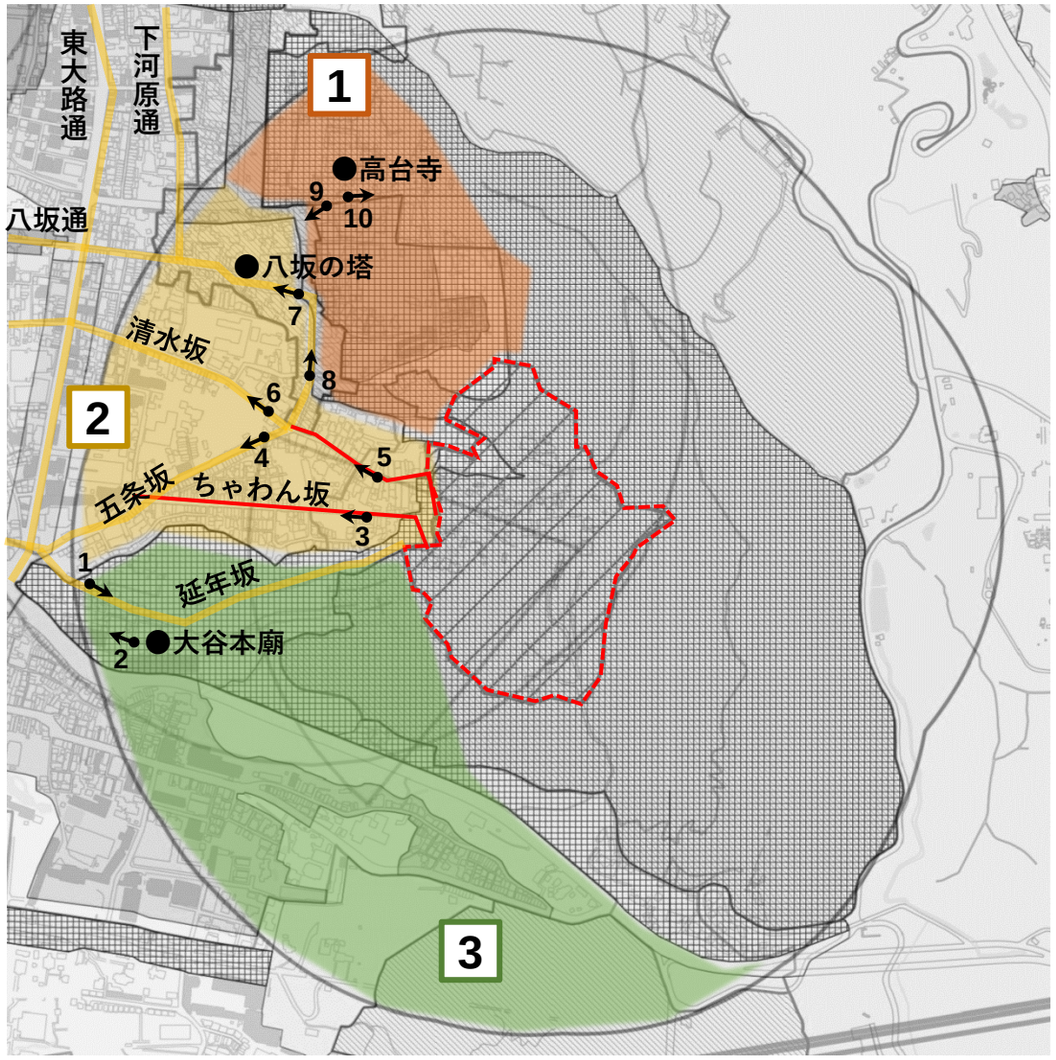
【周辺の特徴】
・清水寺は東山連峰を背景とする高台に位置している。参詣者は清水寺を仰ぎながら坂を上って仁王門に到着する。
・参道である清水坂は低層の商店が立ち並び門前の賑わいのある通りである。ちゃわん坂は裏参道と言われ、陶芸関連の商店や工房が多くみられる。
・旧鳥辺野を通る延年坂は、沿道に墓地が連続する特徴的な景観である。

2-1　大谷本廟正面
：五条坂からの特徴的な景観。

2-2　大谷本廟から西への眺望
：山科からの高架道路と五条通の北側が見える。

2-3　ちゃわん坂の坂上から西への眺望
：両側に低層建築物が立ち並ぶ。遠くに市街地が見える。

2-4　五条坂、清水坂の分岐点付近から五条坂への眺望
：坂の途中にある中低層建築物が見える。



視点場（境内）　視点場（参道等）　主な通り

2-5　清水坂から西への眺望
：通り沿いの低層建築物と遠くに市街地が見える。

2-6　清水坂、五条坂の分岐点付近から清水坂への眺望　：通り沿いの低層建築物と遠くに市街地が見える。

2-7　八坂通から西への眺望
：通り沿いの低層建築物と八坂の塔が見える。

2-8　産寧坂から北への眺望
：通り沿いの低層建築物が見える。

2-9　維新の道から八坂の塔への眺望
：瓦屋根が続く景観。遠くに西山が見える。

2-10　高台寺南門通りから維新の道方面への眺望
：京都霊山護国神社の鳥居と東山が見える。

■３　清水寺周辺の歴史的景観の特徴と建築計画への配慮事項

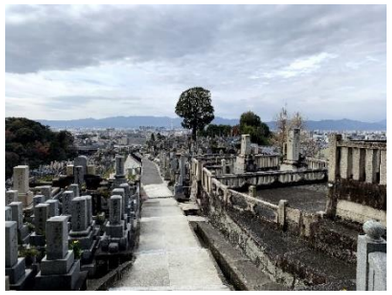
１　清水寺北西側

			参考写真等
ア　エリアの歴史等	・本地域は江戸初期の高台寺の創建に際し、高台寺北政所の召しにより舞芸に達者な女性が多く集まり居を構えことにより町が形成された。 ・下河原町通(下河原通)は八坂神社の表参道として、茶屋数軒、本弓・楊弓の射場が多くあったという。 ・高台寺より二年坂に通じる辺りは八坂神社領であったが、宝暦年間(1751-1764)に桝屋喜兵衛が官許を得て開町し、景勝地として文人・墨客の集会・遊宴の地となった（図3-1)。		 3-1「花洛名勝図会」より 「霊山翠紅館」 元治元年(1864)
イ　町並みの特徴	・清水寺から高台寺、八坂神社に至るエリアで、東山の山並が迫り、京都盆地を見おろす高台の地である。 ・すそ野には京都霊山護国神社、正法寺、霊山歴史館などがあり、樹木や生垣が連続する緑豊かな町並みを形成している。 ・高台寺から北は「ねねの道」と呼ばれ、無電柱化がなされ、広い道幅いっぱいに御影石が敷き詰められている。 ・東山は常緑樹が多く、京都中心部からは緑の背景となっている。江戸時代には赤松林が広がっていた。 **文化財等**：高台寺、高台寺庭園(名勝)		 3-2 維新の道、護国神社の町並み
ウ　景観形成方針	清水寺周辺特別修景地域	風致地区	
	世界遺産の清水寺周辺では、歴史的な趣のある景観を保全する。	清水寺地域では変化の多い地形が高台寺から清水寺へ至る散策道に代表されるようにダイナミックな景観構成を生み出し、趣のある沿道景観を形成している。 また、高台から市街地や社寺群を眺望あるいは俯瞰することのできる視点場が数多く分布していることも特徴である。	 3-3　高台寺公園から西への眺望
エ　建築計画等に求める配慮事項	建築物は日本瓦ぶきの和風外観とし、地域全体の沿道景観の保全を図り、道路側に植栽、生垣、和風門、和風塀を設置し、趣のある散策路の連続性を図る。また、高台または市街地から眺望される地域では、建築物の高さや形態及び意匠、外構及び植栽について特に配慮する。	地域全体の沿道景観の保全により、趣のある散策路の連続性を図る。 また高台からの眺望景観の風致を維持する。	 3-4　ねねの道から北への眺望

２　清水寺西側

			参考写真等
ア　エリアの歴史等	・清水門前一丁目から四丁目は江戸期の町名で清水寺への参詣道沿いに開けた町であった。寛永年中(1624-1645)に産寧坂の西側に陶工野々村仁清が陶芸用の窯を築いたといわれる。 ・明治33年(1900)現東大路通が拡幅し、大正元年(1912)に京都市電東山線が開通、「清水道」「五条坂」の停留所が新設される。 ・五条坂は昭和20年(1945)の建物強制疎開により南側の家屋が撤去され、道路が拡幅されたため景観が一変した(図3-5)。		 3-5「旧一号書庫写真資料」 明治末期から大正初期の五条坂
イ　町並みの特徴	・清水道、ちゃわん坂、産寧坂、二年坂と趣が異なる坂道が数多くある。いずれも道幅が狭く家並みが迫って立ち並ぶ。坂道ならではの高低差を感じる眺望が特徴的である。 ・清水坂は和風意匠の土産物店が多く立ち並ぶ。 ・産寧坂、二年坂は、京町家が多く残っており、特に歴史を感じさせる町並みとなっている。 ・ちゃわん坂は陶器店が多く落ち着いた町並みである。 ・八坂通沿いにある八坂の塔は、多くの人が京都らしさを感じる景観となっている。 **文化財等**：法観寺五重塔、順正清水店(旧松風嘉定邸)、旧円徳院庭園（名勝）		 3-6　現在の五条通 通りは広くなり中高層建築物が立ち並ぶ。遠くに東山が見える。
ウ　景観形成方針	風致地区	歴史遺産型美観地区	
	清水寺地域では変化の多い地形が高台寺から清水寺へ至る散策道に代表されるようにダイナミックな景観構成を生み出し、趣のある沿道景観を形成している。 また、高台から市街地や社寺群を眺望あるいは俯瞰することのできる視点場が数多く分布していることも特徴である。	通りに沿って立ち並ぶ京町家からなる町並みや周辺に集積する寺院の伽藍や土塀、沿道の石積擁壁などにより、通りごとに特性が異なる景観が融合している。こうした景観特性を継承する。	 3-7　産寧坂を見下ろす
エ　建築計画等に求める配慮事項	地域全体の沿道景観の保全により、趣のある散策路の連続性を図る。 また高台からの眺望景観の風致を維持する。	建築物は、３階以上の壁面を後退させ、京町家の町並み景観との連続性を維持する。また、日本瓦ぶきの特定勾配の屋根とし、真壁造、格子戸等の和風意匠を継承したデザインを採り入れる。さらに数寄屋や民家の様式も適切に取り入れる。	 3-8産寧坂、維新の道交差点から北を見る

■４　清水寺周辺の歴史的景観の特徴と建築計画への配慮事項

３　清水寺南西側				参考写真等
ア　エリアの歴史等	・本地域は、古くは鳥辺野と呼ばれる風葬の地であり、現在は鳥辺山本寿寺にその名を残す。本地域を東西に横切る渋谷街道は山科へ至る街道で、街道名は滑谷(渋谷)を通過することによる。東海道の脇往還路で広く利用されていた街道であった。 ・大谷本廟は1272年（文永9年）に東山大谷の地に建立された親鸞の廟堂である「大谷廟堂」（のちの本願寺(大谷本願寺)）に由来する。 ・渋谷越は難所であり水捌けも悪かったためトンネル工事が計画され、明治36年(1903)に完成し「花山洞(花山隧道)」と呼ばれ、現在も利用されている。 ・五条通の東大路通以西は昭和20年(1945)に建物強制疎開により拡幅され、昭和42年(1967)に五条バイパスが完成し周辺地域の環境が大きく変化した。			 3-9　「都名所図会」より「小松谷正林寺」安永9年(1780)
イ　町並みの特徴	・現在も清水寺に至る山筋、谷あいに墓地が連続し、東本願寺大谷祖廟と並び、現代においても葬送地の雰囲気がある。 ・渋谷街道沿いには、三嶋神社・正林寺・清閑寺など、図会に描かれている寺院も多い(図3-9)。古くからの街道らしくこうした社寺や町家もみられるが、新しい建築物も多く、住宅や集合住宅、京都女子大学の関連施設などが立ち並ぶ中低層の町並みが、坂にそって連続している。 ・延年坂や渋谷街道などは、坂になっており、市街を見下ろすことができる。			 3-10　延年坂から西への眺望
ウ　景観形成方針	清水寺周辺特別修景地域	風致地区	歴史遺産型美観地区	 3-11　渋谷街道から西への眺望
	世界遺産の清水寺周辺では、歴史的な趣のある景観を保全する。	変化の多い地形がダイナミックな景観構成を生み出し、趣のある沿道景観を形成している。 また、高台から市街地や社寺群への眺望が特徴である。	通りに沿って立ち並ぶ京町家からなる町並みや周辺に集積する寺院の伽藍や土塀、沿道の石積擁壁などにより、通りごとに特性が異なる景観が融合している。	
エ　建築計画等に求める配慮事項	建築物は日本瓦ぶきの和風外観とし、地域全体の沿道景観の保全を図り、道路側に植栽、生垣、和風門、和風塀を設置し、趣のある散策路の連続性を図る。	地域全体の沿道景観の保全により、趣のある散策路の連続性を図る。 また高台からの眺望景観の風致を維持する。	建築物は、３階以上の壁面を後退させ、京町家の町並み景観との連続性を維持する。また、日本瓦ぶきの特定勾配の屋根とし、和風意匠を継承したデザインを採り入れる。	 3-12　大谷本廟から西への眺望

3-1　「花洛名勝図会」国際日本文化研究センター（http://www.nichibun.ac.jp）
3-5　「旧一号書庫写真資料」京都府立京都学・歴彩館デジタルアーカイブ(http://www.archives.kyoto.jp/websearchpe)
3-9　「都名所図会」国際日本文化研究センター（http://www.nichibun.ac.jp）

※　最終更新日：２０２３年３月